

## 会 議 録 (要旨)

|                    |  |
|--------------------|--|
| 会 議 名              | 第 3 回行政評価委員会   |
| 開 催 日 時            | 平成 22 年 3 月 30 日 (火) 午前 9 時 53 分から 11 時 15 分   |
| 開 催 場 所            | 町民会館 第 1 会議室   |
| 出 席 者 及 び<br>欠 席 者 | 出席者：中西委員、平山委員、小野委員、村山委員、中山委員、木村委員<br>伊藤委員、大神田委員、金井委員<br>専門委員：辻 一橋大学大学院法学研究科教授<br>欠席者：小山委員、湊委員<br>事務局：田辺企画財政課長、大井企画係長、企画係福島、地域振興課地域振興係高橋  |
| 議 題                | 1 行政評価システムの再構築とシートの改良 (案) について<br>2 その他  |
| 傍 聴 者              | 2 名  |
| 審 議 経 過            | <p>日程 1 開会</p> <p>進行は中西委員長により進められ、会議の成立及び会議の公開が告げられた。</p> <p>続いて、事務局から委員の交代及び就任の報告の後、大神田委員及び辻専門委員から委員就任の挨拶が行われた。また、平成 22 年 4 月 1 日付け人事異動の関係で、大井企画係長係長の後任となる高橋が同席する旨が報告された。</p> <p>日程 2 議題</p> <p>議題 (1) 「行政評価システムの再構築とシートの改良 (案) について」</p> <p>事務局から内容 (資料 1 及び 2) を説明。その後、各委員からの意見及び質疑を行った。</p> <p>各委員からの意見及び質問並びにそれに対する事務局の回答</p> <p>(伊藤委員) シートの 2 枚目であるが、目標に対する成果があり、説明の項目には実施したことが記載されているが、これは活動量である。一方、予算や所要時間などは投入量である。これらと成果を区別しておく必要がある。</p> <p>(事務局) ご意見を参考に、シートを作成していく中で、統一化を図る。記載例を示すなどして職員に対しても、わかりやすく作成するよう周知したい。成果と活動実績についても考えていきたい。職員意識の徹底を図っていきたい。</p> <p>(伊藤委員) 作成要領に書き方を例示すべきである。研修会なども含め、職員意識を徹底してもらえればよいのではないか。</p> <p>施策評価、事務事業評価をインターネットで公表している自治体もある。例としてひとつシートを持参したので、参考にしてもらえればと思う。</p> <p>(木村委員) シート 1 枚目の各項目に記載してある注釈は必要ないのではないか。</p> <p>(事務局) 公表を目的にしているため、注釈を入れさせていただいた。いただいた意見を参考にしていきたい。</p> <p>職員が単に事業を実施したというだけでなく、多面的にその事業について考えていくことが今後必要であり、行政評価の目的が成果・結果重視の行政活動であり、また、職員の意識改革も必要であるので、記載例・記載要領を作成し、職</p> |

員を誘導できればと思っている。

(伊藤委員) シートの3枚目に予算・決算額が載っているが、実施計画は3年ローリングなので予算・決算額も3年程度でよいのではないか。我々が見てもなかなか分かるものではない。他の自治体では両面1枚に全てまとめているところもある。このようになっていけば、数字だけ見ても分かりやすい。そのため、前年度、当該年度、次年度のそれぞれ予算・決算額程度の記載でよいのではないかと考える。文章量ではなく、記載事項をコンパクトに分かりやすく、簡潔明瞭にしてほしい。

(事務局) 予算・決算額については担当課が作成した後、事務局及び委員が評価するにあたって、可能な限り情報量を多くしたいと考えている。従って、事業実施年度は記載項目を増やしている。事業実施年度以降の記載項目については簡略化するなど改良の余地がある。過去5年間の数値も、事業の推移を見るうえで必要であると考え。公表するにあたっては、情報を抽出し、必要最低限の情報に絞りたいと考えている。

(伊藤委員) 事業を評価するにあたって、担当課や事務局レベルでは詳細な数値があってもよい。シートを財務会計システムと連動させることができれば、予算・決算額を自動的に入力することもできる。これを含めて公表できれば、予算・決算額の項目にある「当初要求」や「査定後」は必要ないと思った。

(中山委員) 評価指標と年度成果がリンクしてくれば評価が分かりやすくなるのではないかと考える。

(事務局) もっと意識付けできるよう工夫する。

辻専門委員から、行政評価システムに関する現状や他自治体の実施状況などについて説明いただくとともに、瑞穂町の行政評価システムの再構築(案)に関して説明が行われた。

(辻専門委員) 評価指標は状況を見ながら、また、委員の意見を伺いながら変えていく必要がある。シート1枚目の欄の区分けについては、事務局と調整していた中で、従前のシートでは、「目的」と「内容」がほぼ同じようなことが書かれていたこと、「経緯」も年度ごとに記述が異なっていたこと、また、全体的に職員の負担を軽減する必要もあったことから従前のシートから項目を大きくしたものである。そして、目的と内容をしっかり書かせるため、注釈も入れた。項目を大きくするのであれば、注釈を残しておいたほうがよいと考える。書き方も工夫していく必要がある。

目標、投入量及び成果を理論的には整理できるが、毎年実施していることを年度単位で成果を見ていくのは難しい。毎年行ってきたことを5年遡り、あらためてトータルで見ると成果がわかりやすい。評価指標は過去5年を掲載しているので、予算・決算額も5年間としている。シートの2枚目にある年度成果は、本当の意味での成果というよりは、進捗状況に近いもので、年度ごとに最低限何をやったのかをチェックするものである。改良前のシートについても評価指標が非常に強調されるシートとなっていたが、ここの書き方が非常に悪い。事業の成果を計るうえで指標は重要であるので、事業費とあわせて、評価指標が適切であるか

どうか各委員はチェックしていただきたい。

瑞穂町のシートは量が多いが、これは企画担当で行う企画調整・実施計画と財政担当で行う予算編成を一体化したものである。他自治体でシートが 1 枚のものもあるが、これは基本的に評価のときにしか使わないシートである。予算編成のときには、各課は別途予算要求資料を作成するため、職員の負担は大きくなる。瑞穂町のシートではその負担を排除するため、予算と一体化したものである。そのため、シート構成も細かいものとなっている。シートの 1 枚目をみると事業の内容、課題、進捗状況と担当課の評価が分かるようになっている。シートの 3 枚目で毎年度どれくらい予算をかけているのかが分かり、予算編成その他のときはシートの 2 枚目で当該年度の内部のやり取りが分かるようになっている。1 枚目と 2 枚目では内容が多少重複するところもあるが、1 枚目は新規に予算要求したときに骨格が完成し、その後少しずつ修正できるものである。長期総合計画における進捗状況評価は項目を細かく別けたものである。

このシートをうまく活用できるよう、委員の皆様が監視していただきたい。

各委員からの意見及び質問並びにそれに対する辻専門委員の回答

- (伊藤委員) 最終的に、住民に対してどのような成果があったのかを評価し、その後住民にも見ていただくという視点を持ってシートを作成していただきたい。シートの 3 枚目は内部資料としてはこのように細かくてもよいのではないかと考える。
- (辻専門委員) シートの 3 枚目については、各課で設定した目標に対して、どれくらいの成果があったのかをグラフにすることや、シートの 1 枚目に上がった成果を反映させていくなど工夫することが必要である。事業費と成果がグラフなどで一瞥できるようになっていれば住民にとっても分かりやすいのではないかと考える。

議題(2)「その他」

- 1月18日に、総務課を対象に実施した、平成22年度当初予算査定の見学について、当日出席した委員から感想が述べられた。
- (中西委員) かなり詳細に査定していてよいと思ったが、緊張されていたのか、かなり一方的なやり取りであるという印象を受けた。もう少し、お互いのやり取りがあってもよかったのではないかと思った。
- (小野委員) 膨大な項目を査定し、職員も大変であると感じた。個人的にも参考になった。
- (伊藤委員) お互い緊張していたのか、やり取りが甘いという印象を受けた。個人的な意見としては、1回目の査定は課長を除き、係長含めた担当職員が行ってもよいのではないかと思った。課長が1回目からヒアリングしてしまうと、受ける側としても、課長同士のやりとりだけでは、係長職の考え方もなかなか伝わっていかないのではないかと思う。1回目を行った後に、上司と相談しながら次の査定で課長が査定をするというシステムも考えられる。

また、もっとポイントをつかんだやり取りがあってもよかったのではないかという印象である。例えば、印刷枚数の確認、業者の委託先が固定されていないかどうかの確認、耐用年数の確認、単価の追及、報酬の見直しの余地などである。必要性や目的、成果を見て、どれくらい活用されているかという視点でヒアリングをすればよかったのではないかと思った。

(金井委員) 関心があるものについては非常に参考になった。予算を大事に査定していることを確かめた。今後も職員と同じような気持ちで参加できればと思う。

(事務局) 予算編成を担当しては本年度で 2 回目となるが、前例踏襲である部分は反省している。1 回目から課長が査定するというやり方は今後検討する必要もある。他市ではいくつかのステップを踏んでいるが、瑞穂町では 1 回で査定している。査定期間も 1 か月間要するため、その期間中は他の職務にも支障が出てしまう。そのため、まずは係長同士で詳細なやりとりを行い、係長から報告を受けた後に、課長同士が思いをぶつけ合うのもよいのではないかと考えている。部制を敷いて 2 年が経つが、例えば、各部に一定の枠で予算を配分し、部内で予算編成できるような制度も現在設けていない。現在の手法について検討することを含め、企画担当と財政担当が密になっていく必要があるという話もしている。査定ではもう少し突っ込んだやり取りも必要であると思ったが、今回の査定対象が総務課であり、経常的な内容が多かったこともある。査定対象が事業課であれば、もう少し活発なやり取りを見せることができたと思う。いずれにしても、今回は初めての試みであり、非常に緊張感があったという面では良かったのではないかと思う。また、行政評価ヒアリングも 9 月終わりから 10 月を予定しているので、その場を委員に見学していただくことも現在検討している。

#### 行政評価委員会行政改革推進分科会の開催について

(事務局) 5 月中に開催したいと考えている。平成 21 年度に行った行政改革の実施状況を報告したいと考えている。なお、事務局では今後、第 4 次行政改革大綱を策定していくことになり、会議で策定についてお話できるか分からないが、今後分科会長と相談しながら進めていきたいと考えている。

事務局から平成 22 年 4 月 1 日付け事務局職員の人事異動について報告した。

閉会 午前 11 時 15 分